

報告事項

1. 2023 年度事業活動報告(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

長期化したコロナ禍を経て、遺贈寄付を取り囲む環境にも変化があった。終活活動が活発となり、関連する書籍が多く販売されると共に、終活関連業者も多く台頭してきている。遺贈寄付についても認知が高まり、富裕層からの注目があることにより関連金融機関の関心も高く、また仲介事業を行うところもでてきている。

このような環境変化の中で、中間支援団体としての当協会のあるべき姿、役割を問い直し、2023 年度は以下の様な方針で、日本社会での遺贈寄付の推進を行った。

全国レガシーギフト協会の特徴の再認識：他の団体と以下のポイントでの差別化を図った活動を行っていく

- ・ 中立公正な組織であり、遺贈寄付を受けることを目的とはしない
- ・ 遺贈寄付推進のために、遺贈寄付の情報発信を網羅的に行い、仕組みを提供し、遺贈寄付を取り巻く社会環境の整備を推進していく
- ・ 団体の遺贈寄付担当者同士のコミュニティを形成していく(交流、相互研鑽の場の創出)

協会では次のステークスホルダーを主要ターゲットと位置付け、優先的に活動を実施していく

- ・ 加盟団体、レガシーパートナー：寄付者と対峙している組織であり、彼らを通じての遺贈寄付の推進活動が必要となる
- ・ 遺贈寄付仲介組織周辺事業者(金融機関、終活事業者等)、メディア
- ・ 省庁：内閣府、法務省、消費者庁 等

2023 年度は以下の活動を中心とし、遺贈寄付を取り囲む社会環境の整備に努める

1. 会員向け提供価値の再検討とその可視化と実施に努める
2. 遺贈寄付ストーリーの収集と発表を積極的に行っていく
3. 土業、メディア、遺贈寄付仲介組織とのリレーションシップの形成を行う
4. 遺贈寄付ウィークは、受遺団体と遺贈寄付仲介団体、メディアとの協働活動を中心とし、寄付者には彼らからのアピールという作りとする
5. 「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」の普及、援用の働きかけ

上記方針に基づき、当協会で行ってきた主な活動ハイライトは次のとおりである。

活動ハイライト

- ・ 4 回目となる遺贈寄付ウィーク2023では、協賛団体からの遺贈寄付ストーリーを特設ページで紹介すると共に、小冊子を作成、関係者への配布を電子、紙媒体両方にて実施
- ・ 3 年ぶりとなるリアル対面を含めた遺贈寄付サロンの定期的開催
- ・ 「終活」をテーマに遺贈寄付について考える遺贈寄付ライブを 7 月から月 1 回開催し、年間視聴回数は昨年よりも増加

その他、詳細な活動は以下の通りである。

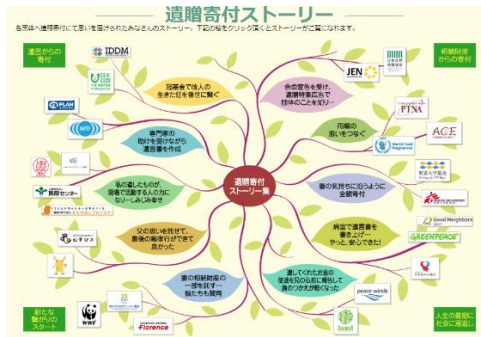
■主な活動

- **4 回目となる遺贈寄付の啓発キャンペーン、「遺贈寄付ウィーク 2023」を実施**
2020 年度から開始した、遺贈寄付の啓発キャンペーンとなる「遺贈寄付ウィーク」を 2023 年度も開催した。

- ・ 実施期間:2023 年 9 月 11 日(月)~17 日(日)
- ・ 主催:全国レガシーギフト協会
- ・ 協賛団体: 合計 61 団体・個人
 - ・ 企業:スペシャルスポンサー(1)、特別協賛(2)、協賛(5) 合計 8 社
 - ・ 非営利組織:特別協賛(会員)(21)、協賛(会員)(16)、協賛(非会員)(4) 合計 41 団体
 - ・ 専門家・団体: 合計 6
 - ・ 個人協賛: 合計 6
- ・ 後援:内閣府、外務省、文部科学省(初)

遺贈寄付ウィーク2023 ハイライト

1. 内閣府、外務省に加えて、文部科学省から後援名義の獲得
2. 協賛団体から寄せられた遺贈寄付ストーリーを特設サイトでテーマ別に紹介すると共に、冊子とし、デジタル版をダウンロードで提供できるように設定。
3. 協賛団体から、アドバイザーチームをつくり、適宜企画についてのアドバイスを取得



遺贈寄付ウィーク 2023 特設ページでストーリーを紹介するとともに
サイトから冊子をダウンロードできるようにも設定。

25 のストーリーが寄せられた

<https://izoukifu.jp/campaign 2023/>

- ・ 主催者実施イベント

	特別イベント	遺贈寄付を始める第一歩セミナー
日時	2023 年 9 月 13 日(水)15:00-16:30	2023 年 9 月 26 日(火)14:00-15:30
趣旨	士業、終活関係者、金融機関向けに、遺贈寄付とは、をお伝えするイベントを開催。後半は、遺言書のデジタル化についての話題にフォーカスし、海外事例と日本での展開の可能性を探るパネルディスカッションを展開。	遺贈寄付の受入をまだ初めていない団体に対して、最初の一步をふみだしてもらったためのセミナー。協会としてもこのテーマでのセミナー開催は初めてであり、3 団体との共催として行った。
形式	オンライン形式 (Zoom)	オンライン形式 (Zoom)
	・オープニングメッセージ: 遺贈寄に託す想い 星野 哲 氏 (立教大学社会デザイン研究所研究員 立教大学院 21 世紀社会デザイン研究科兼任講師) ・遺贈寄付のストーリー 日本対がん協会 岸田 浩美 氏 全国こども食堂支援センター・むすびえ 甲斐 裕美氏 長野県みらい基金 高橋 潤 氏 ・遺贈寄付の実態調査 2023 調査結果発表: 株式会社ファンドレックス 相澤 順也 氏	・「まずはやってみる。一步を踏み出すための心得」: 全国レガシーギフト協会 共同代表 山北 洋二氏 ・「一歩踏み出してみよう」既に受遺団体となっている団体からのアドバイス。 かものはしプロジェクト 南谷友香氏 ちくご川コミュニティ財団 柳田 あかね氏 日本自然保護協会 芝小路晴子氏 <参考> 主催:全国レガシーギフト協会、

	・海外での遺贈寄付のトレンド - イギリスでのオンラインでの遺贈寄付の準備 (ビデオ出演): Mr. Jon Brewer, CEO, Bequeathed, UK ・遺言のデジタル化と寄付の可能性について 濱川 智氏 (SAMURAI Security 株式会社 代表取締役兼 CEO) 樽本 哲氏 (弁護士、全国レガシーギフト協会 共同代表) 齋藤 弘道氏 (全国レガシーギフト協会 理事、遺贈寄附推進機構株式会社代表取締役)	共催: 日本ファンドレイジング協会、公益財団法人日本非営利組織評価センター、一般社団法人全国コミュニティ財団協会
参加人数	113 人	46 人

- ・ プレス関連
 - ・ パブリシティ枠での紹介記事
 - ・ 期間中に 6 件のパブリシティ枠での遺贈寄付ウィーク2023の紹介を行っていただいた: 9/6 神戸新聞、9/7 週刊文春、9/10 文藝春秋、9/13 東京新聞、9/16 新潟日報、信濃毎日新聞
 - ・ 期間中の連合広告企画も全国紙 2 紙、ブロック紙・地方紙 8 紙で展開された。
 - ・ アドバイザーチームの参画
 - ・ 今回、加盟団体、協賛団体から、6 名の有志の方によるアドバイザーチームを結成し、3 回にわたり遺贈寄付ウィーク2023の企画についてアドバイスをいただいた。
 - ・ 振り返りと課題
 - ・ 遺贈寄付のストーリーを集め、特設ページでの紹介と共に小冊子としてまとめることができたのは貴重なアセットとなった。
 - ・ 期間中のイベントでも、複数のレガシーパートナーである協賛団体が合同でイベントを開催するケースも増え、これは日頃の遺贈寄付コミュニティの成果であると感じた。
 - ・ 一方、今回、遺贈寄付ウィークのターゲットとして、協会の活動のターゲットとしても設定している土業、終活事業社、メディアを想定したが、なかなかイベントへの集客に繋げることが出来なかった。ターゲットのコミュニティにこちらから入っていく必要性を感じた。
- 遺贈寄付ライブ: 月に 1 回開催し、遺贈寄付の理解促進へ
- 毎月第4水曜日のお昼の時間帯(12:15-12:45)の「遺贈寄付ライブ」を継続して実施した。2023 年度は「終活シリーズ」と題し 7 月から実施、広く終活周りのトピックスから遺贈寄付を考える内容として展開し、様々な方々に登場をいただくトークセッションライブ (Facebook と YouTube) を実施した。ライブはアーカイブされるので、その後のコンテンツとしても再利用可能としている。
- 協会 HP にて、年間の予定の提示、ならびに過去のライブへのアーカイブへのアクセスを追加し、期待感の醸成と共に、アーカイブ動画を知的コンテンツの活用に転用をはかった。
- 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までの 9 回の累計再生回数は 1,200 回であり、昨年度より開催回数は減ったものの、合計視聴回数は 143%となっている。
- YouTubeライブチャンネル: <https://www.youtube.com/@user-qk3ot2vj3b/streams>

遺贈寄付ライブ開催一覧

開催日時	テーマ	出演者
7 月 26 日	なんで終活するの？	星野 哲氏 (立教大学社会デザイン研究所研究員 立教大学院 21 世紀社会デザイン研究科兼任講師)
8 月 30 日	おひとりさま信託について	久保貴史氏 (三井住友信託銀行 人生 100 年応援部主任)
9 月 27 日	夢を託せる葬儀社	茶屋元崇喜氏 (株式会社ファイン / 全国ネットワーク「みんなの後見センター」プロデューサー / 社会福祉士 / 宅地建物

		取引士／浄土真宗僧侶／NPO 法人グリーンバード大分チームリーダー)
10月25日	終活、託す人は決まっていますか？ ～誰もがおひとりさまになる可能性があります	青木伸夫氏(シニア総合サポートセンター)
11月29日	もめない相続～”笑顔相続”	山本百合香氏(行政書士法人 HOP グループ 行政書士／上級相談診断士)
12月27日	成年後見制度って知っていますか？～制度のトレンドと活用方法について～	高橋 弘氏(司法書士／日本成年後見法学会副理事長／全国レガシーギフト協会理事)
1月31日	フリーウィルズキャンペーン(寄付遺言書の作成助成)をご存知ですか？	三浦美樹氏(司法書士法人 東京さくら代表司法書士／日本承継寄付協会 代表理事／全国レガシーギフト協会 理事)
2月28日	最期の想いを形にするお手伝い～最前線の現場から～	笠 淑美氏(一般財団法人 ウェルスサポート Lab 代表理事)、 吉武 ゆかりさん(ソーシャルワーカー)
3月27日	遺贈寄付ライブ 2023 年度の振り返り	小川愛 (一般社団法人全国レガシーギフト協会事務局長)

協会 HP での遺贈寄付ライブコンテンツの紹介
(<https://izoukifu.jp/live event/>)

The grid displays 9 live event posters arranged in a 3x3 layout. Each poster features a speaker's photo, the event title, date, time, and social media links. The topics include:

- 7月26日 (水) 12:15～**: なんて終活するの? (Speaker: 星野 哲)
- 8月30日 (水) 12:15～**: おひとりさま信託について (Speaker: 久保典史)
- 9月27日 (水) 12:15～**: 夢を託せる葬儀社 (Speaker: 斎藤元康)
- 10月25日 (水) 12:15～**: 終活、託す人は決まっていますか? (Speaker: 青木伸夫)
- 11月29日 (水) 12:15～**: もめない相続 “笑顔相続” (Speaker: 山本百合香)
- 12月27日 (水) 12:15～**: 成年後見制度って知っていますか? (Speaker: 高橋 弘)
- 1月31日 (水) 12:15～**: フリーウィルズキャンペーン (Speaker: 三浦美樹)
- 2月28日 (水) 12:15～**: 最期の想いを形にするお手伝い (Speaker: 笠 淑美, 吉武 ゆかり)
- 3月27日 (水) 12:15～**: 遺贈寄付ライブ 2023 年度の振り返り (Speaker: 小川愛)

■人材育成事業

➤ オンライン研修

オンライン研修では新しいコンテンツの追加はなかったものの、年間 23 人の受講があった。

➤ 遺贈寄付サロンを通して会員間のコミュニケーションもオンラインで継続

遺贈寄付担当者や団体同士のネットワークの構築を促し、講師にテーマに沿った話題・事例提供をリードいただきながら、遺贈寄付のノウハウの構築を促進し、寄付者の方々の思いの実現にむけて行動できる受遺団体を増やす目的で、通年で「遺贈寄付サロン」を開催。2023 年度は、全回、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施。どの会も、毎回満足度の高い評価を参加者から得ることが出来、合計のべ 183 名の参加を得ることができた(対前年比 105%)。

<遺贈寄付サロン開催概要>

日時 / 参加者数	テーマ	登壇者
第 18 回 6月9日(金) 参加者:52 名	不動産遺贈の事例に学ぶ	金子 由美子氏 公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン 遺贈寄付担当 シニアオフィサー 芝小路 晴子氏 公益財団法人日本自然保護協会 支援企画チーム 遺贈寄付担当
第 19 回 10月20日(金) 参加者:56 名	清算型遺贈の実務(税務申告を中心にして)	脇坂 誠也氏(NPO 会計税務専門家ネットワーク 理事長/准認定ファンドレイザー/認定講師)
第 20 回 1月24日(水) 参加者:43 名	「おひとりさま」の終活事情 – 遺品整理と墓じまいの現場から見た「おひとりさまが将来直面する問題」	稲葉 壮一郎氏(千葉県相続診断士協会) 大橋 理宏氏(株)大橋石材店 代表取締役)
4 第 21 回 3月21日(木) 参加者:32 名	遺贈・相続寄付の当事者の声	米田佐代子氏(女性史研究者)

■ 会員事業の強化

・ 加盟団体(正会員)

「いぞう寄付の窓口」を担う加盟団体は、2023 年度は増減なく、現在、19 団体が窓口業務を担ってくださっている。これで 15 都道府県での窓口が開設されたことになる。

・ レガシーパートナー・レガシーサポーター制度の継続

遺贈寄付がより進む社会を作るために、寄付者の想いの実現や価値づくりに貢献する団体が連帯し、知見を集積し、より発信力のあるコミュニティを作る目的で、レガシーパートナー・サポーター制度の運用を 2019 年度から開始。4年目となる 2023 年度も遺贈寄付ウィークの後押しもあり、レガシーパートナー数が増加した。

<2023 年 3 月末日時点での会員数>(前年度からの増減)

- ・ アドバンストレガシーパートナー(サービス提供者):1 団体(±0)
- ・ アドバンストレガシーパートナー(受遺団体):9 団体(±0)
- ・ レガシーパートナー:58 団体(+10)
- ・ レガシーサポーター:10 名(±0)

メディア掲載

- 取材協力を行った共同通信社からの記事「社会のために財産生かす 遺贈寄付」が以下の新聞に配信、掲載されました。
 - 中国新聞 7/28
 - 秋田さきがけ新聞 7/31
 - 下野新聞 8/2
 - 信濃毎日新聞 8/2
 - 佐賀新聞 8/2
 - 高知新聞 8/3
 - 静岡新聞 8/3
 - 南日本新聞 8/4
 - 山形新聞 8/5
 - 京都新聞 8/6
 - 茨城新聞 8/7
 - 埼玉新聞 8/7
 - 福井新聞 8/8
 - 山陰中央新聞 8/10
 - 山陽新聞 8/15
 - 上毛新聞 8/16
 - 日本海新聞 8/18
 - 新潟日報 8/19
 - 千葉日報 8/29
 - 神戸新聞 9/8
- 2024/01/20 日本経済新聞「マネーの学び-遺贈寄付、トラブルを避ける」(取材協力)

相談窓口事業

➤ 相談件数

2023 年度の「いぞう寄付の窓口」に寄せられた相談件数は以下の通りである。

相談窓口	相談件数 (対前年度)
北海道NPOファンド	2 (-2)
地域創造基金さなぶり	3 (-1)
とちぎボランティアネットワーク・とちぎコミュニティ基金	0
ちばのWA地域づくり基金	4 (+4)
南砺幸せ未来基金	0
長野県みらい基金	3 (±0)
あいちコミュニティ財団	0
京都地域創造基金	48 (+27)
泉北のまちと暮らしを考える財団	2 (±0)
ひょうごコミュニティ財団	6 (-6)
佐賀未来創造基金	5 (±0)
未来基金ながさき	0
くまもと SDGs 推進財団	2 (+2)
ちくご川コミュニティ財団	1 (±0)
みらいファンド沖縄	2 (-1)

パブリックリソース財団	10(+4)
日本財団「遺贈寄付サポートセンター」	2,274 (+55)
公益法人協会	12 (- 4)
日本ファンドレイジング協会	2(+1)
全国レガシーギフト協会	8 (+1)
合計	2,384 (+80)

※過去の件数

2017 年度	1,914 件
2018 年度	1,503 件
2019 年度	1,920 件
2020 年度	1,951 件
2021 年度	2,744 件
2022 年度	2,304 件

■ 事務局運営

- 全国コミュニティ財団協会と日本ファンドレイジング協会での共同事務局体制を継続。
- 昨年から引き続き、事業、管理の実行体制を担当毎に振り分け、管理シートで実行業務の可視化をはかった。